

企画書作成時の注意点及び掲載内容

1. 技術研修期間について

- ・技術研修期間は13～14日間です。

2. 研修実施場所について

- ・原則、研修プログラムは四国県内での実施とします。但し、四国県外での研修プログラムを盛り込むことで研修員の理解が深まり、研修成果の向上が見込める場合には他県への視察をご提案下さい。

3. 研修プログラムの構成について

- ・別添の「2020年度 JICA 四国青年研修実施予定案件にかかる概要等」及び下記に記したサイト等を参考に、研修対象国が抱える問題、課題を分析した上で研修プログラムをご提案下さい。

JICA ホームページ「各国における支援」

(URL:<http://www.jica.go.jp/regions/index.html>)」

外務省ホームページ「政府開発援助（ODA）国別データブック

(URL:<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/kuni.html>)」

- ・分析した内容を基に達成目標を決め、その目標を達成するために必要な知識、経験を得るためにどんな講義や視察が必要かを考え、日々のプログラム内容を具体的に設定して下さい。
- ・研修前半に当該研修分野の日本国レベルでの取り組みや組織についての説明があると、その後の県や市レベルの話の際に研修員の理解が深まります。
(例) 各県教育委員会への視察の前に文部科学省の説明がされているなど。
→講義内容や視察先が一体どのレベルの話をしているのか、日本としての取り組みを伝えることが重要です。
- ・講義や視察だけでなく、当該研修分野に精通する日本人と意見交換できる場を設けることが望ましいです。
- ・休日、祝日等を利用し、研修員が四国の地域・文化について知るプログラムや市民の国際理解に繋がるプログラム等、全体のバランスを見ながら研修に盛り込むことが望ましいです。

4. 研修中の休日について

- ・1週間に1日（土曜もしくは日曜）は必ず自主研修日（休養日）として下さい。

5. 研修監理員について

・研修実施にあたっては研修実施言語を話す研修監理員が配置されます。研修監理員は講義及び演習・実習並びに見学・研修旅行時の通訳、引率、生活面でのサポート等を行います。

6. 別紙3「企画書（様式）」について

別紙3「企画書（様式）」の「4. 具体的日程案と成果」で日程案と個々の研修で期待される研修成果については別表にて具体的に記載して下さい。その際に考えていただく日程は、下記の黄色の期間の技術研修プログラム期間となります。白色の日程については既定のプログラムがあり変更ができませんので、ご注意ください。

「青年研修」プログラム日程例（参考事例：保健衛生）				
区分	技術研修 日数	日付	形態	研修内容（例）
来日		6/8(月)		来日
来日プログラム		6/9(火)	午前	ブリーフィング
			午後	日本語講座
		6/10(水)	午前	ジェネラルオリエンテーション「日本の歴史と現状」
				移動：JICA関西→四国へ移動
技術研修プログラム	1	6/11(木)	午前	プログラムオリエンテーション
			午後	講義「日本の公衆衛生行政の課題と展望」
	2	6/12(金)	午前	講義「公衆衛生とリプロダクティブヘルス」
			午後	視察「〇〇医療センター」
	3	6/13(土)	終日	〇〇城への見学
	4	6/14(日)		自主研修日
	5	6/15(月)	午前	講義「公衆衛生教育の現状と課題」
			午後	視察「〇〇看護助産師学校」
	6	6/16(火)	午前	講義「大都市での感染症対策の現状と課題」
			午後	視察「〇〇大学付属病院」
	7	6/17(水)	終日	講義・視察「〇〇学校での衛生教育の取り組み」
	8	6/18(木)	午前	視察「保健所での乳幼児健診」
			午後	講義「日本の保健所の役割」
9	6/19(金)	午前	医療従事者との意見交換会	
		午前	実習「介助実習」	
10	6/20(土)	午前	国際交流イベントへの参加	
11	6/21(日)	終日	自主研修	
12	6/22(月)	終日	総括レポート発表準備	
13	6/23(火)	午前	総括レポート発表会	
		午後	評価会／閉講式	
帰国準備		6/24(水)		移動：四国→関西へ移動
離日		6/25(木)		帰国